

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容等

1 第4学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色，地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動，地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて，人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに，調査活動，地図帳や各種の具体的資料を通して，必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容

(5) 県内の特色ある地域の様子について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 県内の特色ある地域では，人々が協力し，特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。
- (イ) 地図帳や各種の資料で調べ，白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

- (ア) 特色ある地域の位置や自然環境，人々の活動や産業の歴史的背景，人々の協力関係などに着目して，地域の様子を捉え，それらの特色を考え，表現すること。

第4学年西組 社会科学習指導案

学習指導者 網野 未来

1 単元「多文化共生を目指す高松市の姿」について

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

国際交流に取り組んでいる高松市の特色あるまちづくりについて理解するために、社会的事象の見方・考え方を働かせ、多文化共生のまちの実現を目指す人々の活動の様子を捉える。そして、それらの人々の活動の意味について考えたことを友達と交流しながら、特色あるまちづくりに努めていることについて理解を深め、国際交流に取り組むまちのよりよい在り方について考え続けている。

本単元では、日本人と外国人の関わりを充実させ、互いにそれぞれの多様性を受け入れながら共に住みやすい多文化共生のまちづくりを進める高松市の特色を明らかにしていく。まず、県内で外国人住民の数が一番多い高松市について、時間を広げ、その数が年々増えていることを捉える。そして、市や高松市国際交流協会の取組について、姉妹・友好都市との交流や日本人と外国人との交流イベント、外国人の悩みや不安に応えるための通訳等の活動を調べ、様々な人の活動の様子を捉える。このようにして、市や国際交流協会の取組について明らかにした子供たちは、高松市の国際交流団体の分布図を使って空間を広げ、地域でも活動が行われていることを捉え、仏生山国際交流会の取組を調べていく。それらの人々の防災訓練における活動の意味について、立場を広げ日本人と外国人にとってのよさを考え、「日本人に自分の国の食文化を知ってもらえるよ」「でも、外国人にとってのよさだけではないと思うよ」「食文化の違いを知ることで、理解が深まり、外国人と親しくなっていざというときにも助け合えるという日本人にとってのよさもあるよ」などと考えを交流しながら、「十河さんは地域の人に外国文化を広め、そのよさを知ってもらい、日本人も外国人も住みやすい地域をつくらうとしているんだ」などと、人々の活動の意味を捉え、高松市の特色あるまちづくりについて理解していく。さらに、国際交流の進んだまちの姿について考えをもち、日本人と外国人が共に歩み寄ることによって実現するまちのよりよい在り方について考えていく。

2 単元計画（総時数 8 時間）

まず子供たちにとって身近で想像しやすい交流活動を、次に想像しにくい生活支援について追究していく活動を高松市、仏生山地域と二度繰り返す展開にすることで、特色あるまちづくりについて理解を深め、日本人と外国人が共に歩み寄ることによって実現する多文化共生社会のよさを捉えられるようにする。

学習の流れ及び主な子供の意識	
一	① 外国の人々が多く住む地域は、県内のどこだろう 県内の各市町の外国人住民の数を調べ、高松市の外国人住民の数が一番多いことを知る。年々その数が増加していることから、高松市のまちづくりに対する関心を高める。
	② 外国人が多く住む高松市は、どのようなまちづくりをしているのだろう 高松市のまちづくりについて外国人の思いと関連付けながら予想し、学習計画を立てる。
二	③④ 高松市では、外国人とどのような交流をしているのだろう 3 時間目には市による 4 つの姉妹・友好都市との交流について、4 時間目には国際交流協会による日本人と外国人が交流するイベントについて理解する。また、外国人住民の生活上の困り事や不安について知る。
	⑤ 高松市では、困っている外国人に対してどのような取組をしているのだろう 市は通訳やタブレットでの対応や防災訓練、国際交流協会は日本語の指導を行っていることを理解する。
	⑥ 仏生山地域の十河さんは、どのような取組をしているのだろう 留学生に生け花などの日本文化を教えたり、スポーツ大会や防災訓練を行ったりしていることを理解する。
	⑦ 十河さんは、なぜ、防災訓練で外国の料理を用意しているのだろう (本時 7 / 8) 十河さんが外国の料理を参加者に食べてもらっている理由を、外国人と日本人の立場から考える。
	⑧ 国際交流の進んだまちとは、どんなまちだろう。
三	国際交流の進んだまちの姿について、自分なりの考えをもち、話し合いを通して考えを深める。

3 本時について

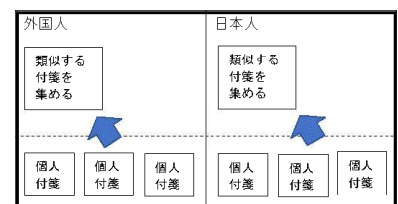
目標	仏生山国際交流会の十河さんが、防災訓練で外国の料理を用意している理由を話し合う活動を通して、外国人と日本人にとってのよさがあることを理解し、多文化共生の地域をつくることにつながることを捉えることができる。
----	--

学習活動		予想される子供の意識			
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【なるほどボード】	仏生山国際交流会の十河さんは、留学生に日本文化を教えたり、スポーツ大会や防災訓練をしたりして、外国人と交流していたよ。			
		防災訓練は今年で3回目で、16カ国90人の外国人が参加していたね。			
		防災訓練では、インドネシアの料理をみんなで食べていたね。			
		防災訓練では、日本の非常食を知ってもらうことが大切なはずなのに、十河さんは外国の料理を用意しているな。どうしてだろう。			
十河さんは、なぜ、防災訓練で外国の料理を用意しているのだろう					
課題解決中	2 十河さんが外国の料理を用意している理由を予想し、話し合う。 【なるほどカード】	【外国人】 イスラム教の外国人も安心して食べられるからだと思うよ。		【日本人】 外国人の食べられるものを知ることができるからじゃないかな。	
		日本人が外国料理のことを知って、外国について詳しくなれるね。		イスラム教の外国人が食べやすいように配慮しているんだね。	
		外国人や日本人にとって、インドネシアの料理を食べるよさとは何だろう。			
		インドネシア人にとっては自分の国の料理だから、食べることができて嬉しいと思うよ。	「互いに文化交流をしたい」という願いがあったから、自分の文化を知ってもらえて嬉しいと思うよ。	外国の料理に慣れることで、もし、外国で災害にあった時に役立つのではないかな。	外国の料理を知ること、理解が深まって、外国人とより親しくなっていくと思うよ。
		どちらにもよさがあるな。外国人にとってのよさは命を守ることにつながるよ。日本人が外国人と親しくなることは、命を守ることにつながるのかな。			
		親しくなると、お互いに助けやすくなるから、命を守ることにつながるよ。			
	3 検証する。	十河さん本人は、どう考えているのだろう。資料で確かめてみよう。			
		外国人のためでもあるけれど、日本人が、習慣や宗教によって食べられないものがあることを知ること、相手のことをより理解できるようになり、いざというときに助け合えるのではないかと考えているんだね。			
課題解決後	4 本時の学習を振り返る。 【今日の「なるほど」シート】	十河さんは、日本人に外国文化を知ってもらい、日本人も外国人も住みやすい多文化共生の地域をつくらうとしていることが分かったよ。			
		友達話を聞いていて、なるほどと思うことがあったよ。		資料の十河さんの話を読んで、なるほどと思うことがあったよ。	
		外国の人と共に生きていくためにどんなまちになっていけばよいのだろう。			

評価	仏生山国際交流会の十河さんが、防災訓練で外国の料理を用意している理由について、それぞれの立場で考えたことを友達と交流し、外国人と日本人にとってのよさがあることを理解し、多文化共生の地域をつくることにつながることを捉えている。 【方法：発言・様相・記述】
----	--

4 子供の実態とメタ認知を促す働きかけの詳細

子供の実態	働きかけの詳細
～課題設定以前～ メタ認知 34名中13名の子供たちは、授業のはじめに、自分の分かっていることと分かていないことを考えていないと感じていることが分かっている。	学習活動1 【なるほど・はてなボード】(2～8時間) 単元を通して学習してきたことを補助黒板にまとめたボードを、教師や子供が指し示しながら、分かっていることや分からないことを確認する場を設定する。本時ではまず、分かっていることとして、仏生山国際交流会の十河さんが、留学生への日本文化の指導、外国人との防災訓練やスポーツ大会を行っていることを確認する。次に、前時に表出した分からないこととして、仏生山国際交流会が行った防災訓練で用意された食事が、市が行った防災訓練の時の日本の料理とは違い、外国の料理であることを確認する。そこで、日本の非常食を知ってもらうことが大切なはずなのに、十河さんが外国の料理を用意していることが、不思議だということを振り返らせ、それを全体で共有することで、本時の課題を設定する。
～課題解決中～ メタ認知 34名中7名の子供たちは、授業の途中で、自分の考えと友達の考えを比べながら聞いていないと感じていることが分かっている。	学習活動2 【なるほどカード】(1・2・7・8時間) 学習活動3 十河さんが外国の料理を用意している理由について予想したことを付箋紙に書いていく。端的にまとめることになるので、伝える際の一助になる。説明するのに時間がかかり、相手に伝わる説明ができにくい子供にも有効であると考ええる。何をどう見たり考えたりしていけばよいか、活動の見通しがもちにくいA児、B児に対しては、視点やキーワードを提示する。予想の際には、「防災訓練で外国の料理を食べることは、外国人にとってはどんなよさがあるのかな、日本人にとってはどんなよさがあるのかな。」と助言することで、立場を明確にして考えをつくっていけるようにする。班での話し合いではまず、考えを書いた付箋紙をボードの下方に貼らせる。そして、考えやその理由について話さず、友達の考えとの共通点や相違点に着目し、類似した付箋紙を近くに貼るなどしていくことで、自分の考えを確かなものにしていけると考える。全体での話し合いでは、多数派と思われる外国人の立場で考えた意見から取り上げてから、少数派と思われる日本人の立場で考えた意見を取り上げる。両方の立場のよさが表出された段階で、防災訓練という場面に立ち返らせ、それぞれのよさが命を守ることにつながるかどうかが考える場を設定する。こうすることで、外国のことを知り、外国人と親しくなれるという日本人にとってよさも、命を守ることにつながることに気付けるようにする。 話し合ったことを資料を用いて検証する。その後、分かったことを全体で共有することで、外国人のためだけではなく、日本人にも外国人の宗教や食文化のことを理解してほしいという強い思いがあることに気付いていくと考える。
～課題解決後～ メタ認知 34名中9名の子供たちは、友達の意見を聞いて分かったことがあるかと考えていないと感じていることが分かっている。	学習活動4 【今日の「なるほど」シート】(1～8時間) 今日の学びでのなるほど度と、なるほどと思った内容について、単元を通して、一枚のシートに振り返らせる。なるほど度については、メーターに色を塗らせ、視覚的に捉えられるようにする。内容については、友達の意見や資料の内容というキーワードをあらかじめ書いておき、記述しやすくしておく。また、出てきた疑問については、自由に記述できる欄を設けておき、全体で児童に表出させるなどして、次の学びへと意識をつなげられるようにする。



【なるほどカード】

今日の「なるほど」シート

氏名()

★ 今日の学びで、どんな「なるほど」があったのか、よく振り返りましょう。
 ★ なるほどと思ったことは何だろう。友達や先生の意見が、よくわかっていよう。
 ★ ぎもんや次に考えたいことがあったら、次へのはてなとして記述しておきましょう。

目付	考えのなるほど度	友・友達の意見 (○○さんの～という意見) し・資料の内容 (○○が～ということ)	次へのはてな
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	友・し ←○をつけよう	

【今日の「なるほど」シート】